

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・東京都・大田区の教育目標

- 学校教育目標
- ・健康な子
 - ・考える子
 - ・やさしい子

- 児童の実態
- ・目的が明瞭な活動に対しては、広く深く追究しようとする姿勢が認められる。
 - ・自分で課題を発見する力や発展的に考える力、見直しをもって追究する力がやや乏しい。

＜学力向上を図る学校経営の基本方針＞

- 【取組の基本】**
- ・育成すべき資質・能力を明確にするとともに、アクティブ・ラーニングの視点による指導方法の改善
 - ・児童の実態に基づいた授業改善の推進
 - ・学力向上にかかる指導の充実と適切な評価の推進
 - ・将来に見据えた「生きて働く力」の育成
- 【授業の実践】**
- ・各種調査の分析を踏まえた学習カウンセリングと個に応じた指導の充実
 - ・久原スタイルを活用した問題解決型学習の定着
 - ・習熟度別学習、少人数指導の効果的な実施による分ける授業の展開
 - ・「久原スタンダード」に基づく学習のきまりの徹底
- 【評価の実践】**
- ・評価計画、評価規準の見直し、および指導と評価の一体化の実現
 - ・スモールステップによる形成的評価やポートフォリオ等を導入した適正な評価の実施
- 【児童理解】**
- ・個性を尊重した総合的、継続的な指導と評価の充実
 - ・個の学習状況の確かな把握に基づく学びの場の確保
 - ・教育相談機能を活かした学習指導の工夫
 - ・児童による授業の振り返りや自己評価を活用した実態の把握

- 地域の実態
- ・古くからの住宅街で、家庭・地域の学校教育に対する関心と期待が高い。三代にわたっての卒業生も多く、学校の取り組みには、協力的である。
 - ・地域行事が盛んで、児童は積極的に参加している。

- 総合的な学習の時間の目標
- 自ら課題を見付け、自ら学び、考え、主体的に判断し、見直しをもってよりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
 - 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考える。

総合的な学習の時間の指導の重点

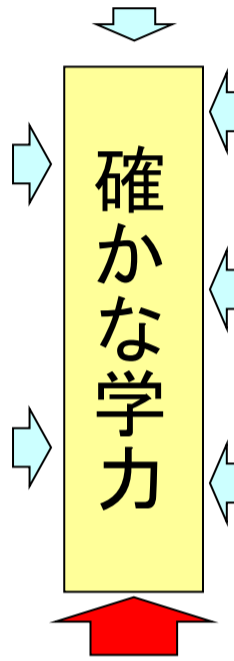
- 目指す児童像
- 自分の考えをもち、深める子
 - かかわり合う子
- 育てたい力
- 問題を発見する力
 - 問題を解決する力
 - 人や事象にかかわる力
 - 表現する力

特別の道徳の指導の重点

- 教科等との関連を効果的に図り、教育目標である「やさしい子」の育成を達成する。
- 人権を尊重し、信頼と協力を基盤とした社会に貢献できる道徳性や道徳的実践力を備えた児童を育成する。

特別活動の指導の重点

- 多様な発想で学習を進め、互いの考えを認め合う集団をつくる。
- 人間関係を豊かにし、思いやりと社会性を育み、一人ひとりのよさが伸びる学校を築く。
- 学校行事や諸活動において、児童に身に付けさせたい資質や能力を明確にし、特別活動の目標を達成する。



授業力向上

各教科の指導の重点

- ・確かな学力と体力・運動能力の定着に向けて、児童の実態に応じた指導の工夫を行う。
- ・児童一人ひとりの興味・関心を大切に教材研究と教材開発を進める。
- ・自ら課題を設定し、解決する学習過程を重視する。
- ・少人数指導やオープンスペースを活かした課題別学習指導等を工夫し、基礎基本の習得と定着を図る。
- ・アクティブ・ラーニングの視点を重視し、「ひと・もの・こと」とのかかわりの中で、主体的で深い学びができるようにする。また、各教科において言語活動を重視し、豊かな表現力・思考力・判断力等を養う。
- ・学習のきまりについて定めた学習スタンダードを全児童が身に付くよう指導し、落ち着いた学習態度の定着を図る。
- ・教員の指導力向上を目指し、授業づくりの基本的な事項(授業づくりスタンダード)に基づいた指導を展開するとともに、随時その修正を行う。

生活指導の重点

- ・児童にかかわる情報交換の場を定期的に設け、児童一人ひとりの理解を深めるとともに、教育相談を基軸とした個別の指導を充実させる。また、全教職員が連携して、児童の多様な課題に対応できる体制を整え、指導の徹底を図る。
- ・いじめ、不登校等の課題に対し、ケース会議や校内委員会等を中心に早期発見・対応を進め、関係機関と連携を図りながら早期解決に努める。
- ・全ての教育活動を通して、児童が互いをかけがえのない存在として認め合うことができる実践を計画的に設定し、学校・学級内に望ましい人間関係を築く。
- ・基本的な生活習慣の定着を目指し、家庭・地域と連携した教育活動を展開する。
- ・「セーフティ教室」や「防犯教室」で、犯罪被害防止や犯罪の抑止につながる指導を徹底する。
- ・災害対策については、津波による避難や不審者対応等、保護者や地域と連携をとり、様々な想定による訓練を行うとともに、自分で判断し行動できる力を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	学習指導の工夫・改善	評価の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・指導(活動)計画を横断的・総合的に配列するなど工夫し、学習効果を高める。 ・標準時数を上回る授業時数を確保し、学びの時間を保障する。 ・地域団体及び関係機関との交流や地域活動への参加を通して、地域に対する帰属意識や郷土愛を育てる。 ・オープンスペースなどの特色ある施設を効果的に活用した教育活動を推進する。 ・補習教室を実施し、個に応じた学力の向上、定着を図る。 ・久原フェスタを日常の学習の総合的な発表の場と位置付け、表現力、かかわる力、創造力を育む。 ・縄跳び、持久走などの運動を体育朝会や休み時間などを利用して継続的に行う。 ・中休みを25分間設定し、定期的なたたわり班遊びやクラス遊びを行うことで、豊かな心やたくましい体力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習スタンダードを全児童が身に付けるよう指導し、発達段階に応じた基本的な学習態度の定着を図る。 ・大田区学習効果測定及び東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査、全国学力学習状況調査等の結果を踏まえ、理解が十分でなかった点を重点的に指導する。 ・算数習熟度別学習・少人数指導や算数ステップ学習における補習教室および土曜補習教室を充実させ、一人ひとりの児童の能力と主体的に学ぼうとする意欲を高め、基礎・基本の定着を図る。 ・アクティブラーニングの視点を重視し、学習意欲を喚起し、主体的に問題を解決する態度を育てる。 ・各教科等において言語活動の充実を図る。 ・久原スタイルを活用した問題解決型学習の定着を図る。 ・新聞を活用した授業や特別活動を工夫する。 ・ICT機器を積極的に活用することで学習効果の向上を図る。 ・合理的配慮に基づいた学習環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な評価計画、評価規準により、一人ひとりの児童の見取りを確かなものとし、それに基づく確かな支援を実現して学力の向上を目指す。 ・授業においては机間指導を重視し、児童の学習状況を把握するとともに、適切な支援を進め、自力解決できる力を育てる。 ・学期ごとに児童による自己評価と授業評価を実施し、指導の重点の明確化と指導法改善の指標とする。 ・各教科等の進捗を随時確認するとともに、調整を図りながら学習内容を確実に実施する。 ・通知表「あゆみ」の記載をより具体的にし、学校と保護者が、児童の学びの軌跡や成長を認め合えるようにする。 ・習熟に顕著な傾向がある単元や領域について共有し、原因を探るとともに補習や発展的な学習につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年及び教科部会の組織的・継続的な取組を推進するとともに、先行研究からも学びを深め、授業改善を積極的に推進する。 ・授業づくりスタンダードを基軸とした指導を行い、個々の授業力の向上を図る。さらに実態を考慮しながら随時見直しを行い、より確かな定着を目指す。 ・全教員が、問題解決学習を基軸とした授業公開を年間に1回以上行う。また、互いの授業観察を年間20回以上行う。 ・若手教員研修会「ひまわりの会」では、日頃の疑問や悩みの解決に向けて課題を明確にした研修を進め個々の授業力の向上を図る。 ・OJTを通して次世代のミドルリーダーを育成するとともに、体育実技やICT、外国語活動等の校内研修会を開催し、指導に生かす。 ・時程を工夫し、OJTをさらに充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色に着目することで、人、自然、社会と積極的にかかわり、課題を自ら発見する力を高める。また、教科の学習で培われた力を発揮して、よりよく問題を解決しようとする過程で、学びを深め、生きるための資質や能力を育てる。 ・保護者ボランティアによる「読み聞かせの会」や図書館等と連携した読書活動を通して児童の豊かな心を育む。 ・学校、保護者、地域、関係機関が一体となる「ふれあい運動会」や「くがはら冬まつり」等の行事に積極的にかかわり、「児童の学びと育ち」「地域力の向上」を支援する。 ・日常の授業や学校行事を積極的に公開し、保護者や地域による外部評価の機会とする。結果については随時考察し、公開するとともに学校経営に反映させる。 ・地域力の活用を「スクールサポートくがはら」のコーディネーターを中心に依頼し、多様な学習活動を創造する。 ・「夏休みドキドキ学校」で体験型の活動を多く取り入れ、児童の学びの体験を広げる。